

【自己診断シート】

まず、授業への引き込みとして、お金が足りないという自分にも起こるうる状況を切り口にします。労働による収入や資産運用という手段を前提にしながら、お金を借りる（金融）という方法があることを挙げて、学習の本題へと入っていくキッカケとします。

Aの解説：

物欲・金欲を煽るものではなく、「お金が足りない時はどうしたらいいか」を考える姿勢を持たせるという程度の動機付けです。とくに、将来を見据え目的を持って購入したい物（学習・芸術・スポーツ関連道具など）は金融の役割を説明するのに適した物といえます。

Bの解説：

「貯める」「借りる」という手段は、比較的容易に出てくると思われます。どうやって貯めるのか、借りる場合はどうするのか、といった問いから金融機関の名前を挙げさせる設問です。

Cの解説：

預貯金をしている生徒には、なぜ預貯金をしているのかを問い、必要性を意識させます。

Dの解説：

銀行の金庫に保管してあると思う生徒も少なくないでしょう。金融には「お金が余っている」「お金が足りない」双方があることを気づかせます。

設問2の解答：政府→国債、地方公共団体→地方債、企業→株式、社債

・左列と右列で数が異なる（1対2で結ばれるものがある）点を補足ください。

【確認テスト】

[解答] 1：C 2：A 3：A

[解説]

1：金融がなければ、必要なものがあっても手持ちのお金の範囲でしかモノの購入や投資ができません。企業は将来の収入を見込んだ投資による生産拡大が、国は道路や橋などの巨額な社会基盤整備ができなくなります。これでは、経済発展もペースダウンしてしまうでしょう。

2：個々の家計で見れば、例えば、住宅ローンを借り入れるなどで資金が不足している状態になることもありますが、家計を日本全体で見れば、支出や借り入れの額よりも収入が多く、資金が余っている状態にあります。この家計部門が、余剰資金を預貯金や債券、株式などの金融資産の購入にあて、“お金が不足している”状態の企業や政府に資金を融通しているのです。

3：直接金融の特徴の一つは、お金の出し手が、お金を使う相手を選べることにあります。投資家が株式を買う際は、どの企業の株式にするかを自分で決めて購入します。Cは、預金者から集めた預金の使い道を銀行が決めているので、間接金融です。